

これからの交通課題と 豊田都市交通研究所の役割

～ TTRI 新中期ビジョンの策定に際して ～

公益財団法人 豊田都市交通研究所
研究部次長・主幹研究員 山崎 基浩

新中期ビジョン策定の背景・目的

■ 交通まちづくりに関する急激な環境変化への対応

- ・ 超高齢社会の到来や自動運転等の急速な技術革新を背景に、交通まちづくりに関する環境が大きく変化。

■ 経営環境の変化への対応

- ・ 超低金利が続く中で、厳しい経営環境が今後も続くと予想される。

■ 産官学を交えた「あり方検討会議（H28年11月）」

- ・ 財政状況に縛られず、大胆な研究成果を発信する。
- ・ 産官学との連携をより強化する。
- ・ 研究成果を行政への政策提言につなげる。



現中期ビジョン期間（平成21～30年度）満了を待たず、1年前倒しで新中期ビジョン（平成30～34年度）を策定する。

本日の“まちべん”で 議論いただきたいこと

■ 新中期ビジョン全体の方向性に対する感想

- 研究所の事業、研究の方向性、考慮すべき社会的背景

■ 研究所が取り組むべき具体的な研究テーマ

- 市民目線での交通課題について
- みなさまが「こんな研究をしてほしい」と考えるテーマについて
(今後、年度毎の具体的なテーマを検討して行くにあたり参考とさせていただきます)

■ 研究所の評価に対する意見

- 研究所をどう評価するべきか、市民目線での評価指標など